

## (2) 健康・スポーツ科学教育部会

教育部会名	健康・スポーツ科学
部会長名／作成者名	前田正登／前田正登
概 要 (2 ページ)	
<p>(1) 組織・運営について</p> <p>令和 2 年度の健康・スポーツ科学教育部会は、人間発達環境学研究科 18 名、海事科学研究科 1 名、保健学研究科 17 名および科学技術イノベーション研究科 1 名で合計 37 名の構成であった。本年度は新たに幹事 1 名を加え、部会長のほか幹事 3 名と技術補佐員 1 名の体制で運営にあたった。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>健康・スポーツ科学教育部会としては、前期に健康・スポーツ科学実習基礎 (1 単位)、後期に健康・スポーツ科学実習 1 (0.5 単位) と健康・スポーツ科学実習 2 (0.5 単位) の 3 つの実習科目、及び健康・スポーツ科学講義 A、健康・スポーツ科学講義 B、健康・スポーツ科学講義 C の 3 つの講義科目 (いずれも 1 単位) の合計 6 科目を開設している。健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり、開設されている 7 科目の実習及び講義を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目標にしている。</p> <p>健康・スポーツ科学実習基礎は、学部ごとに月曜から木曜日まで 11 の曜限枠を設定 (一部複数学部で構成) し、1 枠あたり 3~6 クラス (コース) として、本年度は計 55 コースを全 13 回の授業でセメスター科目として前期に開講した。一方、健康・スポーツ科学実習 1 及び同実習 2 は昨年度までと同様に、後期月曜から木曜日まで 6 の曜限枠を設定し、本年度は計 21 コースを開講した。これらの実習科目では、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限 1 クラス 40 名を目安に設定しており、前後期の 76 コースのうち、専任教員が 31 コース、非常勤講師が 45 コースを担当した。健康・スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について、すべての担当教員が共通の観点を持つために、「健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き」を作成し、各教員の専門性を活かしながら効果的な実習授業を展開している。</p> <p>本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、前期授業は遠隔オンデマンド型により実施することとしたため、健康・スポーツ科学の学修目標及び当該科目の目標、成績評価の方法などについて受講学生に周知するための第 1 回目の授業 (初回ガイダンス) を BEEF により実施するとともに、履修希望の学生は学籍番号をもとに各コースに割り当てて登録した。</p> <p>健康・スポーツ科学講義は、「健康・スポーツ科学講義 A」、「健康・スポーツ科学講義 B」及び「健康・スポーツ科学講義 C」 (いずれも 1 単位) の 3 つを 1 つの時限枠に並列で開設しており、本年度は前期第 2 クォーターで 1 枠、後期第 3 クォーターで 2 枠として提供、それぞれの時限枠で学生がいずれかの科目を選択して履修希望を申請し 3 科目の履修学生数が均等になるように調整して履修登録をさせることにしている。</p> <p>健康・スポーツ科学講義の担当教員はすべて専任教員であり、「健康・スポーツ科学講義 A」では、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識や実践能力について、「健康・スポーツ科学講義 B」では、健康で心豊かな生活を送るためにはどうすれば良いかといった自分でできる健康管理について、「健康・スポーツ科学講義 C」では、スポーツ活動や日常の身体運動に関してスポーツ科学の中の生理学、心理学、及び社会学の各側面から、それぞれ講義を行っている。</p>	

### ◎今年度の特筆すべき事項

#### 1) 前期科目「健康・スポーツ科学実習基礎」の遠隔での実施及びその評価

一昨年度にカリキュラムを改定し、昨年度新設したばかりの「健康・スポーツ科学実習基礎（1単位）」（前期セメスター科目，全13回）を新型コロナウイルス感染拡大防止のために遠隔オンデマンド型により実施した。授業期間直前に「実技等の課題にかかる事故についての補償対象」の問題が指摘されたが，学務課共通教育グループ及び学生支援課の尽力もあってこの問題を解消したうえで授業期間開始を迎えることができた。一方，本科目に対する履修学生の満足度は昨年度から大幅に落ち込む結果となり，遠隔授業にせざるを得なかったとは言え，BEEFによる課題提示からレポート提出，提出レポートの講評に至るまでの設定が，実習科目で提供する内容として妥当であったのか疑問が残った。「健康・スポーツ科学実習基礎」は，実習授業として身体運動やスポーツを介することによって比較的容易にできることが多くあり，そのような特色を有することが「健康・スポーツ科学実習」の魅力の1つでもある。一般教養科目として，学生にとってより有意義な健康・スポーツ科学実習の授業カリキュラムを追求し続ける必要があるだろう。なお，本年度実施した「健康・スポーツ科学実習基礎」の感染拡大防止に関する対応や受講学生の評価などの詳細については，令和2年度末に発刊された「大学教育研究」第29号に「コロナ禍における健康・スポーツ科学実習」として掲載・報告した。

#### 2) 全学共通教育ベストティーチャー賞を複数の実習担当教員が受賞

本年度も前期の健康・スポーツ科学実習基礎を担当した1名と後期の健康・スポーツ科学実習1を担当した1名の非常勤講師がベストティーチャー賞を受賞し，受賞者に続いて学生からの高い評価を受けた教員として，前後期合わせて専任教員2名と非常勤講師5名の計7名の教員が名を連ねた。外国語科目を除く全学共通授業科目を担当するすべての教員が対象となる中で当部会の教員が多く選出されたことは極めて名誉なことであり，これまで部会内で検討・共有してきた実習科目の運営方針の妥当性に自信を深めている。

#### (3) 総括と今後の課題

本年度は，「新型コロナウイルス感染拡大防止」の対応に迫られた。前期の実習科目「健康・スポーツ科学実習基礎」は，昨年度からセメスター科目として改編・開設された科目であり，実施初年度であった昨年度は受講学生からの評価がそれまでの実習科目よりも高く，2名のベストティーチャー賞受賞者とそれに準じる評価を得た教員が5名も選出されるに至っていた科目である。それが，「感染拡大防止」のためにすべて遠隔オンデマンド型の授業となり，結果として，本科目に対する履修学生の満足度は昨年度から大幅に落ち込むこととなった。それでも，ベストティーチャー賞を1名が受賞し学生からの高い評価を受けたとして3名の教員が名を連ねたことは評価に値するものであり，履修する全学生からの評価がさらに高まるように，担当教員それぞれが授業内容を改善していくことが求められるであろう。また，本年度にベストティーチャー賞を受賞した教員と学生からの高い評価を受けた教員9名のうち7名が非常勤講師であり，これが本年度に任用した非常勤講師の半数以上にあたることも確認しておく必要がある。

それでも依然として「非常勤講師の削減」が求められ，前回の外部評価で指摘された「体育施設の老朽化」への対応は少しずつ改善してはいるものの，解決に至ってはいない。これら二つの課題はいずれも経費に直結する問題であり，予算が縮小傾向にある中では解決し難い課題となっていることも事実である。これらに関しては，今のところ，学生の評価も際立って低いことはなく教育の質の低下も認められてはいないが，二つの課題は「健康・スポーツ科学」の評価に影響する重要な課題であり，「健康・スポーツ科学は，授業の範囲を超えて，快適な学生生活を支える重要な役割を担うことが期待できる領域である」との理念の下，今後できる限り早急に対応すべき課題であると考えている。

## A 組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100字程度）

本年度の健康・スポーツ科学教育部会は、部会長の他、3名の幹事及び支援室職員の技術補佐員の体制で運営にあたった。教育部会会議（1月）のほか、実習担当者会議（12月）及び幹事会（4月、5月、9月、11月）を行って教育部会の円滑な運営に努めた。

根拠資料

- ・令和2年度教育部会構成員名簿

## B 内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100字程度）

実習コースは学生の選好に応じて選択できるようになっており、各コースの履修者数は学期ごとに集計し、振り返りアンケートの結果とともに学生のニーズを分析して次年度の時間割作成時に反映している。講義についても履修者数を把握し、授業内容に反映している。

根拠資料

- ・2020年度 振り返りアンケートの結果
- ・2019年度及び2020年度の健康・スポーツ科学実習及び同講義履修者数

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150字程度）

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、前期授業を遠隔オンデマンド型により実施せざるを得なかった。そのため、同科目で当初設定していた3つの「授業到達目標」のうちの1つである「社会性の向上」を欠くこととなり、一部の履修学生の不満に繋がってしまったが、このことは従来からの3つの「授業到達目標」がいずれも不可欠のものであることが再確認されたとも言える。

根拠資料

- ・コロナ禍における健康・スポーツ科学実習，大学教育研究第29号，pp.131-141，2021.
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100字程度）

昨年度に実施できなかったFD講演会を本年度は3月に実施した。本年度は、次年度前期の実習科目を対面にて実施すること、また、次年度から部会長と幹事1名が交代することから、「実習基礎」を中心に実習科目の運営方法について、専任教員だけでなく非常勤講師も含め、担当者の共通理解を図るべく教務担当幹事からの説明のあと意見交換を行った。

根拠資料

- ・令和2年度健康・スポーツ科学実習FD研修会兼オリエンテーションの案内
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100字程度）

健康・スポーツ科学では教養教育支援室職員として技術補佐員を置いており、実習授業が円滑に行えるように補助業務を行っている。また、一部の授業に限定されるものの、ティーチングアシスタントを配置して授業をサポートしている。なお、ティーチングアシスタントは採用時に業務内容について担当教員と詳細な打ち合わせを行っている。

根拠資料

- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・「TA制度の実施に関するガイドライン」及び「TA実施要領」

### C 教育課程と学習成果について

①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100字程度）

健康・スポーツ科学の学修目標は、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することであり、提供している講義3科目及び実習3科目（2018年度生対象は4科目）の目標はいずれもこれに対応したものとなっている。

根拠資料

- ・2020年度各授業シラバス
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100字程度）

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義科目や後期の実習科目についても担当教員に健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえるよう要請しておりそれらに沿ったものとなっている。

根拠資料

- ・2020年度各授業シラバス
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100字程度）

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義科目や後期の実習科目についても健康・スポーツ科学が掲げる学修目標に沿ったものとなっており、いずれの科目においても到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

- ・2020年度各授業シラバス
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり、遅刻や早退についても教育部会独自の基準で学生に対応し、厳正な評価を行っている。また、「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。

根拠資料

- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・2020年度履修カード

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

健康・スポーツ科学実習基礎においては、実習ノートに基づき、運動時のエネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また、各スポーツ種目を教材とした実習では、グループに分けての指導を実施し、その場合はTAを活用して指導が充実するよう配慮している。さらに、実習・講義ともビデオ・DVD等を活用して、学生の理解が深まるよう工夫している。健康・スポーツ科学講義ではオムニバス形式により各講義回の内容を専門としている教員が講義を行うようにしている。

根拠資料

- ・健康・スポーツ科学実習ノート
- ・2020年度 各授業シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50字程度）

健康・スポーツ科学実習基礎及び健康・スポーツ科学講義は、それぞれ複数の曜限で開設されており、同一科目名の科目については、授業内容の共通化を図るためシラバスを共通としている。なお、実習基礎のシラバスは、学修目標はもちろん内容も共通化を図るとともに、実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込めるように一部はコースごとに可変としている。

根拠資料

- ・2020年度 各授業シラバス
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100字程度）

実習授業は曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっており、各コースの内容は初回のガイダンスにて各担当教員より説明し、学生はそれら情報を元にコースを選択して履修手続きを行うこととしている。

根拠資料

- ・2020年度 各授業シラバス
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100字程度）

実習授業では曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっているが、提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており、前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また、実習授業では身体運動を伴うことから、身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は、当該授業にTAを優先的に配置するようにしている。

根拠資料

- ・2019年度 履修学生数一覧
- ・2020年度 履修学生数一覧
- ・2020年度健康・スポーツ科学実習時間割

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100字程度）

健康・スポーツ科学実習の受講学生には、毎期の初回授業で行われるガイダンスで評価観点等について説明し周知している。また、同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し、その上で授業を進めている。

健康・スポーツ科学実習では、成績評価について①評価基準、②評価の対象、及び③評価の観点として、それぞれガイドラインを設けており、科目ごとの成績分布を含めて、前年度末に実施される次年度の健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて授業担当者で確認共有している。なお、成績分布が適正ではなかった科目については、部会長が科目担当者に対して改善を求めることとしている。

根拠資料

- ・2020年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・2020年度履修カード

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100字程度）

健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好である。また、健康・スポーツ科学講義についても良好であり、概ね適切な学修成果が得られていると判断される。

根拠資料

- ・2020年度 振り返りアンケート
- ・令和2年度 各教員の自己点検・評価